

(様式第 10)

宮大医医第 263 号
平成 27 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人宮崎大学長
池ノ上 克

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話(0985) 85 - 1510
--------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 腫瘍内科 6 神経内科 7 感染症内科 8 呼吸器内科 9 内分泌内科 10 代謝内科 11 糖尿病内科 12 リウマチ科 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 心臓血管外科 2 消化器外科 3 形成外科 4	5 6 7
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)脳神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 7産婦人科
(8)産科 (9)婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 (12)放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 (15)麻酔科 (16)救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科・矯正歯科 2	3 4 5 6
7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3	4 5 6
7 8 9 10 11 12 13	
14 15 16 17 18 19 20	
21	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	211 人	192 人	357.1人	看護補助者	60人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	5 人	13 人	18 人	理学療法士	12 人	臨床検査技師	46 人
薬 剤 師	22 人	6 人	28 人	作業療法士	5 人	衛生検査技師	2 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	12 人	そ の 他	0 人
助 産 師	28 人	7 人	33.5人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	491 人	94 人	572.9人	臨床工学士	9 人	医療社会事業従事者	6 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	49 人
歯科衛生士	1 人	2 人	2.5 人	歯 科 技 工 士	1 人	事 務 職 員	69 人
管理栄養士	5 人	1 人	6 人	診療放射線技師	31 人	その他の職員	24 人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	20 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	23 人	耳鼻咽喉科専門医	8 人
精神科専門医	3 人	放射線科専門医	15 人
小児科専門医	15 人	脳神経外科専門医	12 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	21 人
泌尿器科専門医	9 人	麻酔科専門医	21 人
産婦人科専門医	14 人	救急科専門医	7 人
		合 計	185 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	522.0 人	11.2 人	533.3 人
1日当たり平均外来患者数	970.1 人	77.4 人	1,047.5 人
1日当たり平均調剤数			2163.1 剤
必要医師数			113.755 人
必要歯科医師数			6 人
必要薬剤師数			28 人
必要(准)看護師数			304 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	365 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー	○有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤管理指導室					
化学検査室	334 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置 (TBA2000FR,c16000,)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置 (i2000SR,cobas8000)			
細菌検査室	87.2 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	68.5 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織・細胞診自動染色装置、自動封入器、免疫自動染色装置、ドラフト装置、サイトスピン、ThinPrep、自動封入器FISH装置、パラフィン包埋ブロック作製装置、遠心分離機、マイクローム、セーフティキャビネット、恒温器、伸展器、温浴器、オートクレーブ、純水製造装置、VOLTEX、顕微鏡、電子天秤			
病理解剖室	52.5 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン希釈装置、ホルマリン排気バケツBOX、セーフティラック、解剖用骨切断鋸装置、体重計、パソコン (CUMNAVI用)、電子天秤、電子計量器			
研究室	2617 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか			
講義室	553 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	475人
図書室	787 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数	124,438冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	91.3 %	逆紹介率	72.4 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,896人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,077人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,549人
	D: 初診の患者の数		12,535人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	慢性閉塞性肺疾患の運動耐容能改善効果の評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 慢性呼吸不全を来した患者を対象にペプチドホルモングレリンを3週間にわたって点滴静注し(1日2回投与)、運動耐容能の改善、食欲、体重増加を評価する。			
医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 尋常性痤瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			

医療技術名	皮膚悪性リンパ腫へのACNU外用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮膚悪性リンパ腫の皮膚病変に対し、抗癌剤であるACNUの外用療法を行っている。			
医療技術名	酒查皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	61人	・膿疱性乾癬	16人
・多発性硬化症	38人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	51人	・原発性胆汁性肝硬変	26人
・全身性エリテマトーデス	162人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	92人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	21人
・サルコイドーシス	76人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	132人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	24人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	36人	・肺動脈性肺高血圧症	12人
・潰瘍性大腸炎	242人	・神経線維腫症	23人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ピュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	25人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	21人	・ライソゾーム病	8人
・クローン病	178人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	6人	・脊髄性筋萎縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	61人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	69人	・肥大型心筋症	17人
・ハンチントン病	6人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	22人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	16人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	27人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靭帯骨化症	11人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	206人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(一般 7:1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・特定機能病院入院基本料(精神 13:1)及び注4(重度認知症)の加算	・救命救急入院料1
・臨床研修病院入院診療加算 1基幹型	・特定集中治療室管理料4及び注1(広範囲熱傷)の加算、注2(小児)の加算
・救急医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料)
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2及び注2(プレイルーム)の加算
・診療録管理体制加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1及び感染防止対策地域加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・高度難聴指導管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者指導管理料1	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料2	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・がん患者指導管理料3	・網膜再建術
・外来緩和ケア管理料	・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来放射線照射診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ニコチン依存症管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・がん治療連携計画策定料	・経皮的冠動脈形成術
・がん治療連携管理料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型心電図記録計移植術及び植型心電図記録計摘出術
・医療機器安全管理料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料(歯科)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科治療総合医療管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・持続血糖測定器加算	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・経皮的大動脈遮断術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ダメージコントロール手術
・検体検査管理加算(IV)	・体外衝撃波胆石破碎術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図検査	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・時間内歩行試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術

・ヘッドアップティルト試験	・生体腎移植術
・皮下連続式グルコース測定	・膀胱水圧拡張術
・神経学的検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・補聴器適合検査	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・コンタクトレンズ検査料1	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・内服・点滴誘発試験	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・センチネルリンパ節生検(併用)	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・センチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管理料 I
・CT透視下気管支鏡検査加算	・輸血適正使用加算
・ポジトロン断層	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
・CT撮影及びMRI撮影	・歯周組織再生誘導手術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・外来化学療法加算1	・麻酔管理料(I)
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(II)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算	・放射線治療専任加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算	・外来放射線治療加算
・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・高エネルギー放射線治療
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・強度変調放射線治療(IMRT)
・がん患者リハビリテーション料	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・体外照射呼吸性移動対策加算
・医療保護入院等診療料	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・透析液水質確保加算1	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・一酸化窒素吸入療法	・病理診断管理加算1
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・CAD/CAM冠	・歯科矯正診断料
・手術時歯根面レーザー応用加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・歯科技工加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・エキシマレーザー冠動脈形成術	・
・超音波骨折治療法	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	・
・内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会(CPC):33回(院内・院外死亡症例のCPC開催数) 骨髄カンファレンス:週に1回、神経放射線・病理カンファレンス:2週に1回、 泌尿器病理カンファレンス:2週に1回、胎盤肉眼検討会:週に1回 婦人科病理カンファレンス:週に1回、頭頸部カンファレンス:2週に1回
剖検の状況	剖検症例数 24例 / 271剖検率 8.80%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
褐色細胞組織に存在する新規生理活性ペプチドの系統的探索	北村 和雄	第一内科	1,170,000	補 委 文部科学省
IgA腎症新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み	藤元 昭一	第一内科	1,000,000	補 委 厚生労働省
特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果的な慢性腎臓病(CKD)地域医療システムの制度設計	藤元 昭一	第一内科	700,000	補 委 厚生労働省
難治性潰瘍性大腸炎を対象とした医師主導治験のためのアドレノメデュリン製剤の作成	北村 和雄	第一内科	152,239,000	補 委 厚生労働省
Big angiotensin-25の生体内での役割と診断薬としての可能性	北村 和雄	第一内科	5,980,000	補 委 文部科学省
心不全・動脈瘤の発症/進展におけるオステオプロテグリンの関与	鶴田 敏博	第一内科	1,820,000	補 委 文部科学省
難治性腎疾患に関する調査研究	藤元 昭一	第一内科	300,000	補 委 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	第一内科	1,000,000	補 委 厚生労働省
虚血性心疾患の再発防止に向けた冠動脈血栓および動脈硬化巣の組織性状の解析	西平 賢作	第一内科	1,430,000	補 委 文部科学省
アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ	北村 和雄	第一内科	1,500,000	補 委 独立行政法人国立循環器病研究センター
骨髄増殖性腫瘍における病型の進展と急性転化メカニズムの解明	北中 明	第二内科	1,690,000	補 委 文部科学省
TET2変異による造血器腫瘍の発症と進展メカニズムの解明	下田 和哉	第二内科	1,820,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨髄線維症における難治性病態の分子メカニズム解明とその克服	幣 光太郎	第二内科	1,950,000	補 委 文部科学省
大腸鋸歯状病変の画期的な存在・質的診断方法の開発	原田 拓	第二内科	2,080,000	補 委 文部科学省
全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明	下田 和哉	第二内科	29,900,000	補 委 厚生労働省
動物接種とゲノム解析の組み合わせによる画期的な難同定病原微生物診断法の開発	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,170,000	補 委 文部科学省
炎症性肺疾患におけるマイクロパーティクルの役割と治療戦略としての意義	長友 安弘	膠原病・感染症内科	2,080,000	補 委 文部科学省
治療抵抗性関節リウマチ患者におけるHTLV-1感染の影響	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	2,210,000	補 委 文部科学省
HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	2,000,000	補 委 厚生労働省
HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	29,900,000	補 委 厚生労働省
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,300,000	補 委 国立感染症研究所
組織アンジオテンシンII生成におけるビッグアンジオテンシン-25の役割の解明	永田 さやか	第三内科	1,430,000	補 委 文部科学省
肥満におけるエネルギー代謝調節ペプチドの病態生理学的意義の解析	中里 雅光	第三内科	16,510,000	補 委 文部科学省
新規摂食・エネルギー代謝調節ペプチドの網羅的探索と機能解析	中里 雅光	第三内科	5,850,000	補 委 文部科学省
慢性的高脂肪食摂取による学習記憶障害誘導経路の同定と解析	田口 明子	第三内科	7,150,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
慢性閉塞性肺疾患の早期発見のための質問票診断ツールの開発と検証	有村 保次	第三内科	2,080,000	補 委 文部科学省
運動時の感覚神経求心路刺激に应答する臓器の探索	十枝内 厚次	第三内科	1,560,000	補 委 文部科学省
上皮統合性維持機構を標的とする急性呼吸促迫症候群発症機構の解明と新規治療法の探索	中里 雅光	第三内科	2,080,000	補 委 文部科学省
上皮間葉連関を焦点とした肺発生での上皮Ptenの機能解析	三浦 綾子	第三内科	1,820,000	補 委 文部科学省
MRSA肺炎診断・治療の実態調査	松元 信弘	第三内科	10,500	補 委 特定非営利活動法人NEOCI
新規LST8結合蛋白XのmTORシグナル及び糖脂質代謝における役割の検討	迫田 秀之	第三内科	1,430,000	補 委 文部科学省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	中里 雅光	第三内科	400,000	補 委 厚生労働省
「早期診断マルチバイオマーカー開発」(がん細胞が特異的に生成するシェディング産物の網羅的解析によるがんの早期診断システムの開発)	中里 雅光	第三内科	22,000,000	補 委 文部科学省
がん細胞が生成する尿中蛋白質断片の検出を応用した肺腺癌早期診断システム樹立に関する研究	中里 雅光	第三内科	39,910,000	補 委 厚生労働省
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	中里 雅光	第三内科	16,900,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
消化管ペプチドと循環器との機能連関に関する研究	中里 雅光	第三内科	1,500,000	補 委 独立行政法人国立循環器病研究センター
脳内ドパミン神経系における転写調節因子の機能解析を目的とした行動薬理学的研究	石田 康	精神科	1,690,000	補 委 文部科学省
視覚性記憶に係わる嗅周皮質ニューロン内カルシウムイオン依存性情報伝達経路の役割	安部 博史	精神科	2,600,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
精神神経疾患の個体差を克服する個別化薬物療法に有用な分子標的放射性診断薬の開発	石田 康	精神科	325,000	補 委 文部科学省
BPSD発言予測因子としてのバイオマーカーの応用研究	林 要人	精神科	2,600,000	補 委 文部科学省
痒みの伝達におけるヘモキニン-1の役割に関する研究	船橋 英樹	精神科	1,950,000	補 委 文部科学省
Mfsd2遺伝子ノックアウトマウスにおけるエネルギー代謝特性の解明	澤田 浩武	小児科	910,000	補 委 文部科学省
家族性急性リンパ性白血病の原因遺伝子の探索	盛武 浩	小児科	1,300,000	補 委 文部科学省
CD28細胞内シグナル活性化によるポドサイト傷害機序の解明	此元 隆雄	小児科	1,300,000	補 委 文部科学省
膜性増殖性糸球体腎炎における補体B因子の関与の解析	今村 秀明	小児科	1,690,000	補 委 文部科学省
国際共同治験に基づく小児稀少難病に対する遺伝子・細胞治療の実施とその支援体制の整備	布井 博幸	小児科	1,500,000	補 委 厚生労働省
小児がん患者の心理社会的問題と適応に及ぼす影響	武井 優子	小児科	800,000	補 委 文部科学省
原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委 厚生労働省
原発性免疫不全症候群の病態解明と新規治療法開発への応用に関する研究	布井 博幸	小児科	1,000,000	補 委 防衛医科大学校
進行・再発膀胱癌に対する新規エピトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	石崎 秀信	第一外科	1,700,000	補 委 厚生労働省
日本人の人工弁置換術後における抗血小板療法の有効性および安全性に関する臨床研究	中村 都英	第二外科	195,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
レジリエンス・エンジニアリング理論の医療の質・安全における実用化に関する研究	綾部 貴典	第二外科	260,000	補 委 文部科学省
明らかな骨量減少をきたすLima1/EPLIN遺伝子欠損マウスの機能解析	船元 太郎	整形外科	1,430,000	補 委 文部科学省
円板状半月が歩行におよぼす影響についての研究	山口 奈美	整形外科	910,000	補 委 文部科学省
著明な骨量減少をきたすNedd4遺伝子欠損マウスの機能解析	関本 朝久	整形外科	1,950,000	補 委 文部科学省
可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨代謝に関する新規遺伝子群の機能解析	黒木 修司	整形外科	1,950,000	補 委 文部科学省
骨特異的プロモーター+レポーター遺伝子導入ES細胞を用いた骨再生の新たな試み	大田 智美	整形外科	1,430,000	補 委 文部科学省
宮崎市清武町域における皮膚がんの研究	古結 英樹	皮膚科	720,000	補 委 宮崎市
臨床試験、発症ハイリスクホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発	天野 正宏	皮膚科	2,000,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
進行性前立腺癌における新しい治療ターゲットの探索	賀本 敏行	泌尿器科	1,560,000	補 委 文部科学省
低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルアクティブサブイバランス継続率に対する効果を検討する多施設共同、プラセボ対照、無作為化二重盲検群間比較試験	賀本 敏行	泌尿器科	216,000	補 委 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
非動脈炎性虚血性視神経症の治療とステロイドの毛様動脈への弛緩作用の検討	中馬 秀樹	眼科	4,290,000	補 委 文部科学省
未熟児網膜症に対するbevacizumabの効果の検討	福島 慶美	眼科	1,040,000	補 委 文部科学省
片側人工内耳例に対するセカンドインプラントの効果推定検査:ポジトロン断層法の応用	東野 哲也	耳鼻咽喉科	1,170,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新しい難聴遺伝子診断システムの開発および臨床応用に関する研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	500,000	補 委 厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	800,000	補 委 厚生労働省
発達期の副交感神経活動性と低酸素虚血性脳障害の重症度に関する基礎的研究	鮫島 浩	産科婦人科	1,560,000	補 委 文部科学省
迷走神経刺激による周産期脳障害の予防の試み	古川 誠志	産科婦人科	1,560,000	補 委 文部科学省
痒みの伝達に関与する新規受容体の神経行動学的及び分子生物学的解析	中山(直野)留美	産科婦人科	1,690,000	補 委 文部科学省
痒みの伝達に関与する新規受容体の神経行動学的及び分子生物学的解析	中山(直野)留美	産科婦人科	500,000	補 委 文部科学省
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	鮫島 浩	産科婦人科	1,500,000	補 委 厚生労働省
痒み伝達機構におけるGPR83の役割に関する研究	中山(直野)留美	産科婦人科	2,470,000	補 委 文部科学省
HTLV-1 母子感染予防に関する研究:HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	鮫島 浩	産科婦人科	500,000	補 委 厚生労働省
地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来ビジョン実現に向けた先行研究	鮫島 浩	産科婦人科	800,000	補 委 厚生労働省
医食農連携による日向夏搾汁残渣を用いた骨代謝改善素材、飲料の実用化開発	山口 昌俊	産科婦人科	8,300,000	補 委 農林水産技術会議事務局長
HDAC分子標的エピジェネティクスPET診断の基礎及び臨床的応用	西井 龍一	放射線科	3,770,000	補 委 文部科学省
分子標的を応用した新たな静脈血栓塞栓症治療	古小路 英二	放射線科	1,300,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
虚血性脳血管障害のイメージングを目的とした新規PET用フルオロ酢酸誘導体の開発	西井 龍一	放射線科	130,000	補 委 文部科学省
神経障害痛に対する間欠的高周波照射の作用メカニズムに関する研究	田中 信彦	麻酔科	260,000	補 委 文部科学省
オレキシン受容体の機能解析-麻酔との関連-	白阪 哲朗	麻酔科	520,000	補 委 文部科学省
ヒト血管の反応性;正常反応から病態変化に関する研究	恒吉 勇男	麻酔科	520,000	補 委 文部科学省
敗血症性ショック治療薬としてのトロンボモデュリンの効果	矢野 武志	麻酔科	1,950,000	補 委 文部科学省
神経幹細胞、神経膠芽腫癌幹細胞における転写因子Evilの機能解明	横上 聖貴	脳神経外科	1,690,000	補 委 文部科学省
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第三相臨床研究	竹島 秀雄	脳神経外科	1,000,000	補 委 久留米大学
MEL1/PRDM16による骨分化制御機構の解明	井川 加織	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,560,000	補 委 文部科学省
外科的矯正治療は上部消化管、自律神経、内分泌機能の改善に役立つのか?	吉田 真穂	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,690,000	補 委 文部科学省
神経・摂食関連ペプチドが消化管運動と睡眠時ブラキシズムの発現と抑制に及ぼす影響	永田 順子	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,300,000	補 委 文部科学省
エナメル上皮腫におけるTTSPとHAI-1の機能解析	馬場 貴	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,170,000	補 委 文部科学省
人工骨補填材を用いた生体内での血管柄付骨組織再生に関する実験的研究	山下 善弘	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,430,000	補 委 文部科学省
OSCC新規診断、治療標的としてのBST2の検討	近藤 雄大	歯科口腔外科・矯正 歯科	1,820,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アテローム血栓症におけるkalirinの関与	佐藤 勇一郎	病理診断科	1,560,000	補 委	文部科学省
胆道癌における癌関連遺伝子発現とFDG集積との関連に関する研究	長町 茂樹	放射線部	2,600,000	補 委	文部科学省
加齢依存性変形性関節症に関わる新規クロマチン蛋白	谷口 昇	救命救急センター	1,690,000	補 委	文部科学省
脂肪細胞分化における新規クロマチン蛋白の機能解析	谷口 昇	救命救急センター	130,000	補 委	文部科学省
乳幼児突然死症候群(SIDS)および入用突発性危急事態(ATLE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	児玉 由紀	総合周産期母子医療センター	400,000	補 委	厚生労働省
スマートフォンを用いる臨床医療のナレッジマネジメント	荒木 賢二	医療情報部	2,210,000	補 委	文部科学省
医療者間コミュニケーション不全解消のための電子クリニカルパスの要件定義および実装	鈴木 斎王	地域医療連携推進センター	1,430,000	補 委	文部科学省

小計 7

合計 97

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Sumiharu Sakamoto	第一内科	Adrenomedullin does not contribute toward the development of abdominal aortic aneurysm in mice.	Health 6(10): 1077-1084 2014
2	Sumiharu Sakamoto	第一内科	Impact of age-dependent adventitia inflammation on structural alteration of abdominal aorta in hyperlipidemic mice.	PLoS One 9(8):e105739. doi: 10.1371/journal.pon e.0105739 2014
3	Shohei Koyama	第一内科	Osteoprotegerin is secreted into the coronary circulation: a possible association with the renin-angiotensin system and cardiac hypertrophy.	Hormone and Metabolic Research 46(8): 581-586
4	Keishi Kubo	第一内科	Biological properties of adrenomedullin conjugated with polyethylene glycol.	Peptides 57: 118-121 2014
5	Junji Kawagoe	第一内科	Association between adiponectin production in coronary circulation and future cardiovascular events in patients with coronary artery disease	International Heart Journal 55(3): 239-243 2014
6	Sayaka Kawano	第一内科	Gender-related alterations in plasma adrenomedullin level and its correlation with body weight gain.	Endocr Connect 4(1): 43-49 2015
7	Tatsunori Toida	第一内科	A randomized control study on the procedure for switching Epoetin Beta (EPO) to Epoetin Beta Pegol (CERA) in the treatment of renal anemia in maintenance hemodialysis patients	Blood Purification 38(3-4): 174-179 2014
8	Johji Kato	第一内科・フロンティア科学 実験総合センター生理活性 物質探索病態解析分野	Natriuretic peptides.	In: Caplan M, ed. Reference Module in Biomedical Sciences doi: 10.1016/B978- 0-12-801238- 3.03972-6 2014
9	Yuji Sato	血液浄化療法部	Significance of estimated glomerular filtration rate in predicting brain or heart attacks in obese and non-obese populations.	Clinical and Experimental Nephrology doi: 10.1007/s10157- 014-1062-2 published online 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
10	Takuro Kameda	第二内科	Loss of TET2 has dual roles in murine myeloproliferative neoplasms: disease sustainer and disease accelerator.	Blood 125(2): 304-315 2015
11	Yuka Ebihara	第三内科	A case of neurolymphomatosis: Peripheral neuropathy induced by diffuse large B-cell lymphoma without any abnormal accumulation observed on early positron emission tomography-computed	Brain and Nerve 67(2): 219-223 2015
12	Koji Toshinai	第三内科	Neuroendocrine regulatory peptide-1 and -2 (NERPs) inhibit the excitability of magnocellular neurosecretory cells in the hypothalamus.	Brain Research 1563: 52-60 2014
13	Nobuyuki Ishii	第三内科	Severe orthostatic hypotension due to unilateral carotid artery dissection.	Neurology International 6(2): 5352 2014
14	Hiroaki Ueno	第三内科	Exploratory trial of intranasal administration of glucagon-like peptide-1 in Japanese patients with type 2 diabetes.	Diabetes Care 37(7): 2024-2027 2014
15	Hironobu Tsubouchi	第三内科	Rikkunshito ameliorates cachexia associated with bleomycin-induced lung fibrosis in mice by stimulating ghrelin secretion.	Nutrition Research 34(10): 876-885 2014
16	Hironobu Tsubouchi	第三内科	Ghrelin relieves cancer cachexia associated with the development of lung adenocarcinoma in mice.	European Journal of Pharmacology 743: 1-10 2014
17	Nobuyuki Ishii	第三内科	High-frequency oscillation and recovery functions of somatosensory evoked potentials in human T-cell lymphotropic virus type 1-associated myelopathy.	Journal of Neurology & Neurophysiology 5(6): 1000254 2014
18	Wakaba Tsuchimochi	第三内科	Teneligliptin improves glycemic control with the reduction of postprandial insulin requirement in Japanese diabetic patients.	Endocrine Journal 62(1): 13-20 2015
19	Nobuhiro Matsumoto	第三内科	Ghrelin administration for chronic respiratory failure: A randomized dose-comparison trial	Lung 193(2): 239-247 2015
20	Takeshi Kawaguchi	膠原病・感染症内科	Crystalglobulinemia with fulminant course with cylinder-like bodies on peripheral blood smear.	Internal Medicine 53(16): 1847-1851 2014
21	Sunichi Miyauchi	膠原病・感染症内科	Increased plasma lactoferrin levels in leucocytapheresis therapy in patients with rheumatoid arthritis.	arthritis Care and Research 53(11): 1966-1972 2014
22	Kunihiko Umekita	膠原病・感染症内科	Treatment with anti-tumor necrosis factor biologic agents in human T lymphotropic virus type I-positive patients with rheumatoid arthritis	Arthritis Care and Research 66(5): 788-792 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
23	Hideki Funahashi	精神科	Hemokinin-1 mediates pruriceptive processing in the rat spinal cord	Neuroscience 277: 206-216 2014
24	Go Koganemaru	精神科	Effects of cabergoline and rotigotine on tacrine-induced tremulous jaw movements in rats.	Pharmacology Biochemistry and Behavior 126: 103-108 2014
25	Ryuichiro Takeda	精神科	Intrastriatal grafts of fetal ventral mesencephalon improve allodynia-like withdrawal response to mechanical stimulation in a rat model of Parkinson's disease.	Neuroscience Letters 573: 19-23 2014
26	Hideki Funahashi	精神科	Hemokinin-1-derived peptides have the antipruritic effect in rats.	Therapeutic Targets for Neurological Diseases 2015: 2: e704. doi: 10.14800/ttnd.704 2015
27	Ai Yamada	小児科	Proposed strategy for the use of high-dose chemotherapy with stem cell rescue and intrathecal topotecan without whole-brain irradiation for infantile classic medulloblastoma.	Pediatr Blood Cancer 61(12): 2316-2318 2014
28	Hiroshi Moritake	小児科	Clinical characteristics and genetic analysis of childhood acute lymphoblastic leukemia with hemophagocytic lymphohistiocytosis: a Japanese retrospective study by the Kyushu-Yamaguchi Children's Cancer	International Journal of Hematology 100(1): 70-78 2014
29	Seiichiro Jimi	第一外科	Clinicopathological features, postoperative survival and prognostic variables for cancer-related survival in patients with mucinous colorectal carcinoma	Surgery Today 45(3): 329-334 2015
30	Naoya Imamura	第一外科	Prospective randomized clinical trial of a change in gastric emptying and nutritional status after a pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy: comparison between an antecolic and a vertical	HPB 16(4): 384-394 2014
31	Masakazu Matsuyama	第二外科	Long-term results of endovascular repair for distal arch and descending thoracic aortic aneurysms treated by custom-made endografts: Usefulness of fenestrated endografts	Annals of Vascular Diseases 7(4): 383-392 2014
32	Hirohito Ishii	第二外科	Two Dehiscences of the Aortic Valve Commissure and Cusp with Progressive Acute Aortic Regurgitation	Annals of Vascular Diseases 8(1): 43-45 2015
33	Masaki Tomita	第二外科	Prognostic Significance of Pre- and Postoperative Glasgow Prognostic Score for Patients with Non-small Cell Lung Cancer	Anticancer research 34(6): 3137-3140 2014
34	Masaki Tomita	第二外科	Epidermal growth factor receptor mutations in Japanese men with lung adenocarcinomas	Asian Pacific journal of cancer prevention 15(24): 10627- 10630 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
35	Masaki Tomita	第二外科	Gender Does Not Have a Potential Predictive Value for the Presence of Epidermal Growth Factor Receptor Mutation in Lung Adenocarcinoma	Advances in Lung Cancer 3(4): 82-87 2014
36	Takanori Ayabe	第二外科	Effect of Inhaled Tiotropium as the Perioperative Management of Patients Undergoing Pulmonary Resection for Primary Lung Cancer	Journal of Cancer Therapy 5(9): 845-859 2014
37	Takuya Tajima	整形外科	Comprehensive Safety Management and Assessment at Rugby Football Competitions.	International Journal of sports medicine 35(12): 1012-1016 2014
38	Shoichiro Mukai	整形外科	Matriptase and MET are prominently expressed at the site of bone metastasis in renal cell carcinoma: immunohistochemical analysis.	Human Cell 28(1): 44-50 2015
39	Shoichiro Mukai	整形外科	Presurgical treatment with axitinib in renal cell carcinoma patients with venous extension.	International Cancer Conference Journal. doi: 10.1007/s13691-014-0203-5 2014
40	Satoru Sugie	整形外科	Effect of dutasteride on microvessel density in benign prostatic hyperplasia.	In Vivo 28(3): 355-359 2014
41	Takahiro Nakashima	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Late pneumolabyrinth may be induced by old penetrating injury: Possibility of undiagnosed posttraumatic perilymphatic fistula.	Case Reports in Otolaryngology 2015: Article ID 506484 doi: 10.1155/2015/506484 2015
42	Takashi Nabekura	耳鼻咽喉・頭頸部外科	A case of cochlear implantation in a patient with Epstein syndrome.	Auris Nasus Larynx 42(2): 160-162 2014
43	Hideki Koketsu	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Treatment of Giant Cellulitis-like Sweet Syndrome With Daposone.	JAMA Dermatology 150(4): 457-459 2014
44	Seishi Furukawa	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Repetitive administration of acetylcholine receptor agonist rescues brain inflammation and brain damage after hypoxia-ischemia in newborn rat.	Journal of Perinatal Medicine 42(3): 379-384 2014
45	Ken Furuta	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Acute and massive bleeding from placenta previa and infants' brain damage.	Early Human Development 90(9): 455-458 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
46	Seishi Furukawa	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Galantamine, an acetylcholinesterase inhibitor, reduces brain damage induced by hypoxia-ischemia in newborn rats.	International Journal of Developmental Neuroscience 37: 52-57 2014
47	Ken Furuta	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Differences in maternal morbidity concerning risk factors for obstetric hemorrhage.	Austin Journal of Obstetrics and Gynecology 1(5): 1-5 2014
48	Seishi Furukawa	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Regional differences of microglial accumulation within 72 hours of hypoxia-ischemia and the effect of acetylcholine receptor agonist on brain damage and microglial activation in newborn rats.	Brain Research 1562: 52-58 2014
49	Akira Nakajima	産婦人科	Intracerebral antioxidant ability of rats under hypoxia estimated using the microdialysis-ESR method.	Applied Magnetic Resonance 45(12): 1417-1425 2014
50	Akira Nakajima	産婦人科	Intracerebral antioxidant ability of mature rats after neonatal hypoxic-ischemic brain injury estimated using the microdialysis-electron spin resonance method.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 41(6): 884-889 2014
51	Takuma Kawasoe	脳神経外科	Detection of p53 mutations in proliferating vascular cells in glioblastoma multiforme.	Journal of Neurosurgery 122(2): 317-323 2015
52	Kouji Yamasaki	脳神経外科	Agenesis of the left internal carotid artery in the right aortic arch with isolation of the left innominate artery associated with ruptured cerebral aneurysm: case report	NMC Case Report Journal 2: 46-48 2015
53	Kouji Yamasaki	脳神経外科	Case of primary diffuse leptomeningeal gliomatosis.	Brain Tumor Pathology 31(3): 177-181 2014
54	Takehiro Nakamura	歯科口腔外科	The role of spinal serotonin receptor and alpha adrenoceptor on the antiallodynic effects induced by intrathecal milnacipran in chronic constriction injury rats	European Journal of Pharmacology 738 :57-65 2014
55	Kentaro Nagai	歯科口腔外科	Development of a complete human anti-human transferrin receptor C antibody as a novel marker of oral dysplasia and oral cancer.	Cancer Medicine 3(4): 1085-1099 2014
56	Shigeki Nagamachi	放射線科	The problem of metabolic tumor volume in FDG/PET for evaluating cancers-determination of threshold and use of methionine-PET.	Journal of Radiology & Radiation Therapy 2(2): 1029 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
57	Genji Shimpuku	手術部	Endotracheal tube insertion time for a cervical stabilized manikin using airway scope and multi view scope: a randomized manikin study.	Journal of Anesthesia & Clinical Research 6(2):1000504 doi: 10.4172/2155-6148.1000504 2015
58	Noboru Taniguchi	救命救急センター	Surface-holding repair: an original arthroscopic rotator cuff repair technique.	Journal of Shoulder and Elbow Surgery 23(5): 620-627 2014
59	Noboru Taniguchi	救命救急センター	Bone marrow stimulation at the footprint of arthroscopic surface-holding repair advances cuff repair integrity.	Journal of Shoulder and Elbow Surgery 24(6): 860-866 2015
60	Kenji Yorita	病理診断科	Posterior mediastinal ganglioneuroma with peripheral replacement by white and brown adipocytes resulting in diagnostic fallacy from a false-positive 18F-2-fluoro-2-deoxyglucose-positron emission	Journal of Medical Case Reports 8(1): 345 2014
61	Makoto Kodama	病理診断科	Cutaneous paragonimiasis due to triploid Paragonimus westermani presenting as a non-migratory subcutaneous nodule: a case report.	Journal of Medical Case Reports 8(1):346 2014
62	Kazunari Maekawa	病理診断科	Primary central nervous system lymphoma in Miyazaki, southwestern Japan, a human T-lymphotropic virus Type-1 (HTLV-1)-endemic area: clinicopathological review of 31 cases.	Journal of Clinical and Experimental Hematopathology 54(3):179-85 2014
63	Kenji Yorita	病理診断科	Emerging histopathological prognostic biomarkers in hepatocellular carcinomas.	Personalized Medicine Universe 3(1): 15-21 2014
64	Makiko Kawaguchi	病理診断科	Mechanisms of hepatocyte growth factor activation in cancer tissues.	Cancers 6(4): 1890-904 2015
65	Yukihiro Haruyama	病理診断科	High preoperative levels of serum glypican-3 containing N-terminal subunit are associated with poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma after partial hepatectomy.	International Journal of Cancer DOI: 10.1002/ijc.29518 published online 2015
66	Takashi Osaki	薬剤部	Albumin-binding of diclofenac and the effect of a site II inhibitor in the aqueous humor of cataract patients with the instillation of diclofenac.	Biopharmaceutics & Drug Disposition 35(4): 218-227 2014
67	Kazuya Yasuda	薬剤部	Pramipexole reduces parkinsonian tremor induced by pilocarpine infusion in the rat striatum.	Pharmacology, Biochemistry and Behavior 131(1): 1-5 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
68	Koichiro Itai	臨床倫理部	Current status and challenges of clinical ethics committees and clinical ethics consultations in Japan.	Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine 8: 4-26 2014
69	Tomoyoshi Yamazaki	医療情報部	The trial of patient safety education using the educational electronic recording system.	Journal of Medical Safety 104-106 2014
70	Muneo Kushima	医療情報部	Research on text data mining of hospital patient records within Electronic Medical Records	2014 Joint 7th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems, SCIS 2014 and 15th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, ISIS 2014 1500-1505 doi: 10.1109/SCIS-ISIS.2014.7044651 2015

計 70

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 宮崎大学医の倫理委員会指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的、用語の定義、対象及び基準、臨床研究実施者等の責務、委員会等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容 申し込み手順・臨床研究保険について・適合性調査などについてなど	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的で開催している。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

2 研修の実績

研修医の人数	68人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北 俊弘	第一内科	准教授	29年	
稲津 東彦	消化器 (内科)	講師	30年	
石川 哲憲	循環器 (内科)	助教	24年	
佐藤 裕二	腎臓 (内科)	准教授	25年	
下田 和哉	第二内科	教授	29年	
今津 善史	第三内科	助教	15年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内科	教授	35年	
石田 康	精神科	教授	31年	
布井 博幸	小児感染免疫	教授	39年	
近藤 千尋	第一外科	准教授	31年	
中村 都英	第二外科	教授	3年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	31年	
天野 正宏	皮膚科	教授	29年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	28年	
上村 敏雄	泌尿器科	助教	20年	
直井 信久	眼科	教授	36年	
川畑 隆之	耳鼻咽喉科	助教	15年	
鮫島 浩	産科婦人科	教授	34年	
長町 茂樹	放射線科	准教授	31年	
矢野 貴徳	神経放射線	講師	26年	
榮 建文	腹部放射線、救急疾患	助教	20年	
中田 博	胸部放射線	助教	19年	
楠原 和朗	放射線治療	助教	16年	
山賀 昌治	麻酔科	教授	16年	
山下 善弘	歯科口腔外科・矯正歯科	教授	21年	
落合 秀信	救命救急センター	教授	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべ

てのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

全ての職種を対象とした医療安全・感染対策講習会について、職員は年間で2度受講することを義務付けられている。また、職種ごとには専門的知識を習得するための勉強会や医療機器の取り扱いに関する講習等が実施されている。

・研修の期間・実施回数

1つの研修は1日で終了するものが多く、1ヶ月～1年間の期間で1回～15回程度開催されている。

・研修の参加人数

研修の規模により異なり、1名～100名程度が参加している。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

(1) 時間外業務の機器使用に関する研修

(2) 抄読・グループワーキングによる、業務に必要となるリスクマネジメントや書類作成など（急性期における言語聴覚リハビリテーションの指針、身体障害者診断書記入方法等）

(3) 平成27年度介護報酬改正に関する研修会

・研修の期間・実施回数

(1) 7日間・7回 (2) 2日間・2回 (3) 1日間・1回

・研修の参加人数

(1) 40名 (2) 6名 (3) 22名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

それぞれの職種の現場における研修

・研修の期間・実施回数

1日間・10回

・研修の参加人数

1つの職種で20名～200名程度参加している。

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 吉原 博幸
管理担当者氏名	総務課長 大西 文昭

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		電子媒体（電子カルテ） 及び 各診療科	<ul style="list-style-type: none"> 原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 エックス線写真は電子媒体に保存
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	なし	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
第規 一則 号第 一 掲条 の 十 一 制第 一 確項 保各 の号 状及 況 び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課 総務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉原 博幸	
閲覧担当者氏名	総務課長 大西 文昭	
閲覧の求めに応じる場所	ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要 ※以下は、病院運営審議会の議事録についての記載		
・内部者については、権限を付与し、閲覧を制限している。		
・外部者については、特に定めていない。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療に係る安全管理の基本的考え方2. 医療に係る安全管理体制3. 職員研修・教育4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策5. 医療事故等発生時の対応6. 患者等との情報の共有7. 患者からの相談の対応8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。2. 医療安全管理マニュアルに関する事。3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。8. 医療安全管理部の業務に関する事。9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。11. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理に関する講演会（7回）（※講演会未受講者はDVD講習会（30回）またはe-ラーニング（1回）で受講）<ul style="list-style-type: none">・ 九大病院医療事故から学んだこと～なぜ間違える？なぜ事故に学ぼうとしない？・ 医療メデイエーション：患者との対話による関係調整・ 薬事法改正に伴う医薬品安全管理に関する喫緊の課題・ ME機器の安全管理・ 宮崎市版「エンディング・ノート」について－患者さんから提示された際の本院としての対応－・ 医療現場における暴言・暴力への対応・ 情報セキュリティと個人情報保護2. 各部署との勉強会（4回）3. 新規採用者研修（12回）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知2. 作業標準の作成3. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し4. 院内ラウンド5. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (5名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (5) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会 (以下「委員会」という。) の運営に関する こと。 (2) インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。 (3) インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に 関すること。 (4) インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指 導に関すること。 (5) 患者からの医療に係る相談に関すること。 (6) インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。 (7) 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。 (8) 医療安全のための教育・研修に関すること。 (9) 医療安全管理マニュアルに関すること。 (10) 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。 (11) 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。 (12) その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に対する基本的な考え方・ 委員会等の組織に関する基本的事項・ 職員研修に関する基本方針・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 感染の予防に関すること。(2) 感染の情報の収集に関すること。(3) 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。(4) 防疫対策の確立に関すること。(5) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年57回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する講演会（7回）（※講演会未受講者はDVD講習会（30回）またはeラーニング（1回）で受講）<ul style="list-style-type: none">・ 抗菌薬届出様式変更による使用状況の評価・ 検体の提出方法について・ ワクチンの基礎知識と重要性・ 多職種連携による感染制御の成果・ 本院における抗菌薬感受性統計の見方・ 針刺し等事故後の対応について・ 知っておきたい当院の院内感染対策2. 部署別研修（6回）3. 新規採用者研修（13回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 感染対策担当者会議での報告及び周知2. 院内ラウンド（環境ラウンド、抗菌薬ラウンド）3. 院内感染対策マニュアルの作成、見直し4. 感染制御部会議、ICT会議、感染対策委員会での対策の検討、事例報告等5. サーベイランス6. コンサルテーション7. 地域連携（カンファレンスおよび相互チェックの実施）	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 4月 医員（研修医）対象：オリエンテーション開催 医薬品の安全について 6月 看護師対象：静脈注射に関する薬剤の基礎知識	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 業務手順書に基づいて業務が実施されているかチェック表を用いて確認した。 (2) 医薬品安全管理上注意すべき情報提供を全職員に対し随時行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 業務手順書は、作成後、各部門へ一部ずつ配布した。また、手順書の周知を徹底するために院内電子カルテの「カムナビ」に掲載し、全職員が閲覧できるようにした。 (2) 業務手順書を現場の実情に合うように改訂した。	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</p> <p>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</p> <p>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</p> <p>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ((有)・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価機関：公益財団法人 日本医療機能評価機構 認定番号：認定第MB67-3号 受審日：2013年1月21日～2013年1月23日 認定証発行日：2013年4月5日 認定期間：2013年2月17日～2018年2月16日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	